

**問 題** 日本における戦前の協同組合の状況について説明した以下の文章 A から D のなかには、適切なもの、不適切なものがそれぞれ二つずつある。適切な説明の組み合わせを示しているものを、解答群の①～④のなかから一つ選びなさい。

- A 協同組合は人びとの自主活動のなかから生まれてくる面があるから、産業組合法が制定される以前にも、農産物の販売を目的にした販売組合的な組織があった。
- B 日本では国の手で協同組合づくりがスタートしたから、産業組合法が制定される以前には、農産物の販売を目的にしたような販売組合的な組織はなかった。
- C 都市の労働者や消費者を担い手とする消費組合づくりは、キリスト教の活動や労働運動などに関連をもちつつ、すでに戦前から行われていた。
- D 都市の労働者や消費者を担い手とした消費組合づくりは、思想弾圧が厳しかった戦前にはみられず、戦後になってからの展開となった。

<解答群>

- ① A・C      ② A・D      ③ B・C      ④ B・D

(24 年度・全国統一中級・J A 事業論・協同組合論)

- 1 **解 答** ① (難易度：普通)
- 2 **解 説** 戦前の協同組合法である
- 3 産業組合法は、明治 33 年 (1900) に制
- 4 定された。産業組合とほぼ同じ内容を
- 5 もつ協同組合はそれ以前にも数多く設
- 6 立されていた。
- 7 農商務省が明治 31 年に実施した調
- 8 査によると、信用組合が 144、販売組
- 9 合が 141、購買組合が 39、利用組合が
- 10 9、製産組合が 14、合計で 347 の協同
- 11 組合が全国的に設立されていた。
- 12 なかでも信用組合、生糸販売組合、
- 13 製茶販売組合、肥料購買組合がとくに
- 14 重要な地位を占めていた。
- 15 生糸や製茶の販売組合が設立された
- 16 理由は、安政 6 年 (1859) の横浜開港

17 により、わが国と高度に発達した世界  
18 市場との接触が始まったが、そのなか  
19 で新しい販路を見出した生糸、製茶な  
20 どの特殊な商品において、生産面と販  
21 売面の発達を伴いながら販売組合が設  
22 立されていったことによる。

23 生糸については、群馬県の<sup>うすい</sup>碓氷社、  
24 <sup>かんら</sup>甘楽社、<sup>しもにた</sup>下仁田社という上州南三社が  
25 有名である。碓氷社は明治 11 年、甘楽  
26 社は明治 13 年、下仁田社は明治 26 年  
27 の設立である。

28 碓氷社は、当初、碓氷座繰製糸社と  
29 呼ばれていたが、碓氷郡磯部村の副区  
30 長であった萩原遼太郎が、この地方の  
31 大生糸商であった萩原音吉と相談して、  
32 先行する座繰製糸改良団体であった前  
33 橋製糸舎の技術と組織を模範に、小規  
34 模な共同販売組織を立ち上げたもので  
35 ある。

36 甘楽社は、当初、北甘楽製糸会社と  
37 呼ばれていたが、この組織はいわゆる  
38 「会社」とは異なり、北甘楽郡の 13  
39 の揚返工場を構成員とする販売協同組  
40 合であった。それぞれの工場が別々に  
41 販売することの不利を克服するために、  
42 三井物産による為替取扱の便宜を受け  
43 つつ、連合組織を結成した。

44 下仁田社は、甘楽社から分離・独立  
45 したものである。

46 製茶の販売組合も、世界市場との接  
47 触によって発展していった。とくに主  
48 産地である静岡県小笠郡の製茶生産者  
49 の間で、製茶品質の改善と輸出業者と

50 の直接取引を目的とする販売組合の設  
51 立が試みられるようになった。

52 その最初の組合は明治 10 年の磐田  
53 社であったが、この組合は 2 年後に解  
54 散している。同じ頃、小笠郡上内田村  
55 でも共同販売が試験的に開始され、数  
56 年間の失敗を経て、明治 16 年になって  
57 初めて成功し、益集社を設立した。こ  
58 れを機に小笠郡内では数多くの製茶販  
59 売組合が設立されるようになり、産業  
60 組合法が成立した明治 33 年までに 48  
61 組合を数えるまでに至った。

62 一方、都市の労働者や消費者を担い  
63 手とする消費組合は、産業組合法の成  
64 立以前にも、労働組合や社会主義者ら  
65 によって設立されたが、そのほとんど  
66 は長続きしなかった。

67 産業組合法に基づく消費組合の先駆  
68 けは官公吏、軍人、教員などの俸給生  
69 活者によって組織された都市型組合で  
70 あった。この種の組合は明治 41 年には  
71 44 組合を数えたが、その後も発展を遂  
72 げたのは 10 組合にも満たなかった。

73 しかし、第一次世界大戦を契機とす  
74 る労働者階級の成長、都市中間層の増  
75 大は、戦後の民主主義的風潮と労働運  
76 動の発展のなかで、新しいタイプの都  
77 市型組合を生んでいった。これが第 2  
78 次世界大戦終了までの時代の消費組合  
79 運動の主流を形成した。

80 家庭購買組合（東京）は大正 8 年  
81 （1919）、購買組合共益社（大阪）は大  
82 正 9 年、神戸消費組合と灘購買組合は

83 大正 10 年、江東消費組合は大正 15 年  
84 に設立された。都市型消費組合運動の  
85 主導者として、キリスト教社会主義者  
86 の賀川豊彦が名高い。 (石田正昭<sup>いしだまさあき</sup>)

87

88

89 122 行×17 字

90 (17+1) ×2=36 行

91 122 行-36 行=86 行